

2018 年度 (平成 30 年度) 学校評価自己評価表

大門	中学校区	校番	福山市立 大津野小 学校
最終更新日		2018年(平成30年)10月30日	

I 福山市
 ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感力
・子どもと向き合う時間の確保 ・地域行事への参加等により地域を愛する児童生徒の育成	・思考力・表現力が弱い。 ・自尊感情は伸びてきたが、主体的に行動する力は弱い。 ・目的意識をもった地域行事等への参加が不十分である。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自ら考え、学び、自尊感情の高い生徒
		中学校区として統一した取組等	・カリキュラムマップに基づく「見せる・見る授業」を実施する。 ・レーダーチャートを活用し、学級力や自尊感情を高める取組をする。(年4回アンケート実施)

III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力	思考力・判断力・表現力	主体性・積極性	共感力	
見えない「人間の根っこ(学問・社会性)」を育てる	めざす子ども像	1・2年	自分で疑問や課題を見つけ、生活体験や既習事項をもとにして解決しようとしている。	生活体験や既習事項から順序立てて自分の考えを持ち、絵や言葉、動作などを駆使して表現している。	自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。	身近な人に温かい心で接している。
学校教育目標		3・4年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決している。	生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えを持ち、絵や言葉、動作など適切な方法を選択し、表現している。	集団の中で、自分がやるべきことに気付き、進んで行動している。	相手の気持ちを考え、行動している。
大きく広げる知識 積み上げる伝統 のばす体力		5・6年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。	生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えを持ち、目的や意図に応じて、論理的に説明したり、適切な方法を選択したりして表現している。	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標を持ち、自分から行動している。	相手を思いやることの大切さに気付き、相手の立場を尊重し、行動している。
現状	教科等	国語科・特別活動				
〈児童生徒〉 ○自分の言葉でめあてに対するまとめや振り返りを書くことができる児童が増えたが、基礎学力や活用力・表現力は低い。 ○給食指導の強化により、給食残菜率や食器破損率が減少した。 △学級会議等により学級力や自尊感情は向上してきたが、自ら考え、主体的に動く力はまだ弱い。	研究	主体的に学び、思考力・判断力・表現力を高める授業づくり ～課題発見・解決学習と協働の学びを通して～				
〈授業〉 ○課題追求型のめあての設定や評価基準の提示を通して、単元におけるその1時間の役割を意識した授業が増えた。 △児童が課題を発見したり、疑問に思ったことを追求したりする授業が少ない。児童が主体的に学び、友達と考えを広げたり深めたりしながら思考力・表現力を培う授業づくりが必要である。	めざす授業の姿	自ら考え、学び、友達と協働しながらともに高まり合う授業 ・自分の考えを根拠をもとに表現する授業 ・児童が互いに学び合い、考えを広げたり深めたりする授業				

2	たくましい体の育成		継続	めあてをもち、自ら進んで健康・体力向上を図る児童を育てる【課】【主】	課題のある種目について、家庭学習や体育の準備運動に取り入れる。	新体カテストにおける県平均以上の種目率を65%以上にする。【体カテスト】	□96種目中56種目が達成し、種目率は58.3%。達成率は89.6%。 □家庭学習や授業は16学級中16学級が達成し、100%。	3	3	・再計測に向けて、体育の授業や家庭学習で重点的に取り組む種目の具体策を計画する。				
3	教職員の授業力向上		★見直し	児童が自ら考え、学ぶ授業をつくる【課】【主】	1人3回以上「見る・見せる授業」を行う。	友達と話し合う活動を通して、「自分の考えを広げたり、深めたりすることができている」と肯定的評価する児童を60%以上にする。【児童アンケート】	□16学級中16学級が達成し、100%。(学校平均は90%) □「見る・見せる授業」は全学級で学期に1回実施し、100%達成。	3	3	・子ども主体の学びに向けて研修を行い、2ヶ月に1単元ずつ、取組シートを作成する。				
3	保護者・地域から信頼される学校の創造		継続	地域に愛着をもち、ほこりをもった児童を育てる【共】	年2回以上地域の人とふれあう授業をつくる。	「大津野が好き」と言える児童を80%以上にする。【児童アンケート】	□16学級中16学級が達成し、100%。(学校平均は97%) □地域の人とふれあう授業は、年間計画に沿って進めており、100%達成。	3	4	・カリキュラム・マップの見直しを毎月行い、ふるさと学習の進捗状況を確認し、さらに充実させる。				

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。